

県内12人 全国最多

在宅ケア分野の特定認定看護師

徳島大、需要踏まえ養成

在宅ケアを専門とする特定認定看護師が県内に12人となり、全国で最多となっている。超高齢社会を迎え、在宅ケアの需要が高まる中、徳島大の看護リカレント教育センターが2021年に全国で初めて専門の教育課程を設けて養成に力を入れてきた。資格を取得した看護師は、知識や経験を生かしながら、在宅療養の質の向上に努めている。

特定認定看護師は、21年分野のいずれかについて専にできた制度。新型コロナウイルス感染症への対応で、医師に代わって一部の注目された「感染管理」、医療行為ができる特定行為救急医療の現場で活動する「クリティカルケア」、終末期医療に当たる「緩和ケア」など19

県によると、介護や医療保険を使って訪問看護を利

医師に代わり医療行為



在宅療養中の患者に特定行為の一つ、胃ろうカテーテルの交換を行う河野さん（左）＝県内

用した人は16年は2889人だったのに対し19年は3798人となり、3年間で約900人増加。徳島県は人口10万人当たりの医師数は全国最多（20年の統計）だが、徳島市など県東部への偏在が顕著となっている。こうした状況を踏まえ、センターはニーズが増大する在宅ケアの環境を整えるためには特定認定看護師の養成が必要と考え、教育課程を設けた。

れる頻度が高いため「患者の普段の様子を知っている」ので、異常に早く気付ける。その時にすぐ対応できるようになれたのは良かった」と話す。

訪問を受ける患者や家族にとつては心身の負担軽減につながっているという。県北部の30代の男性は幼少期の事故が原因で重度の障害がある。気管にカニューレ（管）を入れ、胃ろうで栄養補給を行いつつ在宅で療養している。母親（58）は「これまでは胃ろうのチューブが抜けたり詰まったりしたときは、急いで病院を受診したりしていた。看護師さんがすぐに家に来て対応してくれるようになったので、精神的負担が軽くなった」と話す。

在宅ケア分野の特定認定看護師は22年12月時点で全国で53人。県内では、県外で研修などを受けた21年の1人に続き、22年にセンターの教育課程を修了した1期生21人（県内は11人）全員が合格。計12人となって全国最多となった。

センターの課程を修了し、同年11月に特定認定看護師となった河野昌代さん（52）は、胃ろうのカテーテル交換など4種類の特定行為を実際に行っている。医師より患者の元を訪

（県内9人）が卒業。4月には24人（県内6人）が入学しており、今後、県内で活躍する人材は増える見通しだ。センター長の山下留理子特任教授は「地域全体の看護の質を上げられるように専門性の高い看護人材の育成に努めたい」と話している。（佐藤聡美）